

子供が上手にそして安全に“G I G A”環境を使うには、
まずは先生が学びましょう。
多忙だからこそ、eラーニングが役立ちます。

広教ニュースレター

Vol.38

広教 2023.7
HIROKYO

<https://www.hirokyou.co.jp/>

ネットモラル

沖縄県名護市では、二〇二〇年からG I G A環境の導入を開始するとともに、広教の「学校情報セキュリティ」も導入しました。「従来型研修の限界と課題を、eラーニングが打開してくれました」と、市教育委員会の渡口さんは語ります。

eラーニングで先生も学べる 学校情報セキュリティ

名護市では、二〇二〇年からG I G Aの端末やクラウドの導入を開始しましたが、当初から先生や子供の利用に「制限」を設けていません。Google Workspace for EducationのチャットやMeetを「自由に使うこと」と、教育委員会で決定したのです。便利なツールは積極的に活用すべき。行政職として、わたしはそう考えています。

最初は学校現場から不安の声も上がりました。しかし、たとえばチャットを禁止したとしても、クラウドの共同編集で悪口を書いてしまうかもしれません。面と向かって、人を傷つけてしまうかもしれません。大事なのは、人としての正しい行動、正しいツールの使い方を指導することではないでしょうか。

しかしG I G A導入当時、子供を指導すべき先生方にも、課題がありました。情報セキュリティの意識が低かったのです。たとえばIDとパスワードを書いた付箋を、自分の端末に貼って平然としていました。これで子供にちゃんと教えられるでしょうか。教育委員会では、これまでも情報セキュリティの研修を行ってきたのですが、限界を感じました。管理職や情報担当を対象に集合研修を行い、それぞれの学校に伝えていく形では、全員に浸透するのが難しく、先生や学校によって差が生じやすい。しかも先生方は多忙極ま

りないため、集合研修や校内研修の時間を取るのがますます困難になっていきます。

この問題を解決するのに役立ったのが、広教の「学校情報セキュリティ」でした。eラーニングなら、集合研修と異なり、自分の都合のいい時間に受講できます。いつ、何を学ぶかを、先生方は自由に選択できます。働き方改革が叫ばれる今、先生が学びたい時に、学びたいことを学べる環境を用意する。それが、教育委員会の役割です。

みんな同じ教材で学びますから、個人差や学校間格差も出づらいですし、振り返りや学び直しも簡単です。一人ひとりの研修状況を可視化できるのも、大きな利点です。まだ受講してない先生に促したり、受講した内容について先生同士話し合ったりと、すでに効果が出てきています。現在文部科学省では、データの可視化と活用を推進しています。が、学校情報セキュリティを通して「データの可視化と活用とはこういうことか」と、先生方は体感しています。

名護市に異動してきた先生や新採の先生



沖縄県名護市教育委員会
学校教育課 学校支援係 ICT担当
とぐち ひろし
渡口 裕 主査

には、学校情報セキュリティの全事例を受講してもらっています。他の先生に関しては、子供への指導と関係が深い事例を必修としています。たとえばIDとパスワードに関する事例、クラウドに関する事例などです。先生がクラウドを理解していないと、「クラウドは危険だ」と思い込み、子供に使わせなくなってしまいうからです。またSNSに関する事例など、「ここは注意が必要だな」という事例も必修としています。教委として必修事例を定めて、あとは各校の校長にお任せしています。

子供が学ぶ教材として Netモラルも導入

そうやって先生の学びを進めていると、「子供にはどう教えればいいのか」という声が、先生方から上がるようになってきました。そこで今年度から、「事例で学ぶNetモラル」を導入しました。

Netモラルも学校情報セキュリティと同様、子供一人ひとりが繰り返し何度でも学べます。誰かどの事例を学んだか、学んだ前と後で変化が起きたかを可視化できるため、指導にも活かせます。

また名護市では、GoogleアカウントでNetモラルにシングルサインオンできるようにしています。

◀ 裏面上部へ続く

Netモラルのアカウント管理をする手間がかからないので、助かっています。

ゆくゆくは、子供が自主的に関心を持った事例を学ぶようになるでしょう。学びたいことを、学びたい時に学ぶ。これこそが、個別最適な学びです。そのために、教育委員会として「学びの選択肢」を豊富に用意することを心がけています。

子供に「GIGA」環境を安全に使えるには
まず大人が学ばねば

「学校情報セキュリティ」と「Netモラル」のおかげで、先生も子供も理解が深まり、上手かつ安全にGIGA環境を使えるようになってきています。「eラーニングは便利だね」と、先生方は積極的に学んでくれていますし、IDとパスワードを書いた付箋を端末に貼る先生もいなくなりしました(笑)。

新しいアプリやサービスは、これからもどんどん出てきます。今後も情報モラルや情報セキュリティ教育を、アップデートしながら継続していきます。情報セキュリティや情報モラルは決して難しいことではありません。正しく理解すれば、便利に安全に使えるようになります。子供の利活用を促すために、まずは先生が、大人が理解を深めましょう。



セキュリティ意識を高めよう



GIGA端末やクラウドの導入が開始され不安に感じている現場の先生も多いのではないのでしょうか。情報セキュリティや情報モラルを正しく理解すれば、便利に安全に使えるようになります。この機会に、情報セキュリティと情報モラルについて考えてみましょう。



しんぼ もとやす

新保 元康 先生 (特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長) から

名護市さんの取り組み素晴らしいです！チャットやMeetなどの最新のツールを怖がらずに積極的に授業に活用しています。学校で禁止しても、子どもたちは学校外でこうした機能を使います。ですから、先生たちが「学校情報セキュリティ」でしっかりと学んで、正しい使い方を教えるのは本当に大切なことです。しかも、eラーニングを使うことで、先生たちの働き方改革にも配慮しています。こうした取り組みが広がるといいですね！

子供たちの

学びの環境を整える

✓ 学びの選択肢

自分のペースでいつでも学べる

✓ 学習の可視化

自分の学びが目で確認できると次へつながる

✓ 繰り返し何度でも

大事なことは繰り返しできることが大切

指導のポイント

子供が自分事として考え
自主的に学べる環境



先生の

働く環境を整える

✓ 便利なツール

新しいツールを活用すると効率化へ

✓ 先生も学べる環境が必要

日々変化する時代は、学ぶことで不安解消に

✓ eラーニングが役に立つ

受講者はいつでもどこでも学べるし、
研修会担当者が結果をすぐに把握できる

✓ 同じ教材がいい

個人差や学校間格差をなくすためには
同じ教材で学ぶのが理想的



GIGA環境での指導に
お悩みの先生 **必見!**

情報活用能力育成サポートの指導法



東京学芸大学教育学部 高橋純研究室と広教が、
情報活用能力育成サポートの指導法について共同研究しております。

文部科学省の研究開発校に指定されている春日井市立高森台中学校にご協力いただき、「事例で学ぶNetモラル」を活用した授業を撮影いたしました。指導案(略案)もあわせてご案内しております。

情報活用能力育成サポート教材である「事例で学ぶNetモラル」を活用した指導法をご提案いたします。

お申込者限定 無料公開! お申込み・お問合せはこちらから



Webサイト

<https://www.hirokyou.co.jp/netmoral/products/yousei/>



無料お申込み

https://www.hirokyou.co.jp/netmoral/yousei_form/

広教ニュースレターは、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線でご活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <https://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO